

Title	野外活動における指導者の役割について
Sub Title	A study on role of leaders in outdoor activities
Author	野口, 和行(Noguchi, Kazuyuki) 村山, 光義(Murayama, Mitsuyoshi)
Publisher	慶應義塾大学体育研究所
Publication year	1995
Jtitle	体育研究所紀要 (Bulletin of the institute of physical education, Keio university). Vol.35, No.1 (1995. 12) ,p.49- 56
JaLC DOI	
Abstract	The purpose of this study was to find the role of leaders in outdoor activities from the constituent elements which was composed of environment, contents and participants of outdoor activities. As the result of study, the followings were found ;1) For the correspondence to environment, contents and participants of outdoor activities, leaders shuld carry out the role as interpreter who interprets about natural resources, in structor who teaches outdoor skills, a nd counselor who helps participants to find one's own place within a social group. 2) Leaders should carry out the role as administrator who manages various program to achieve effectually the purpose of outdoor activities. 3) Leaders should carry out the role as interpreter, instructor and counselor according to purpose and contents of activities, w hile they do the role as administrator in as ource of one's own view of outdoor activities.
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00135710-00350001-0049

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

野外活動における指導者の役割について

野 口 和 行* 村 山 光 義*

A study on role of leaders in outdoor activities

Kazuyuki Noguchi¹ and Mitsuyoshi Murayama¹

Abstract

The purpose of this study was to find the role of leaders in outdoor activities from the constituent elements which was composed of environment, contents and participants of outdoor activities.

As the result of study, the followings were found ;

1) For the correspondence to environment, contents and participants of outdoor activities, leaders should carry out the role as interpreter who interprets about natural resources, instructor who teaches outdoor skills, and counselor who helps participants to find one's own place within a social group.

2) Leaders should carry out the role as administrator who manages various program to achieve effectually the purpose of outdoor activities.

3) Leaders should carry out the role as interpreter, instructor and counselor according to purpose and contents of activities, while they do the role as administrator in a source of one's own view of outdoor activities.

Key words: Outdoor Activities, Role, Leaders

はじめに

野外教育という用語は、1961年に公布されたスポーツ振興法の中で一つの条文として位置づけられたことによって一般に定着してきた。スポーツ振興法第二条では「この法律においてスポーツとは、運動競技及び身体活動（キャンプ活動その他の野外活動を含む）であって、心身の健全な発達を図るためにされるものをいう⁴⁾」としており、野外活動をスポーツ振興法の対象の一つとして位置づけている。

それから30年余りの間に、所得の増大、余暇時間の増加、価値観の変化等の社会的背景の中で、野外活動人口は飛躍的に増加し、その内容も多様化してきている。これまで、野外活動の振興は「国民への啓蒙」という点に重点が置かれていたため、指導者の役割も「技術の指導」

*慶應義塾大学体育研究所助手

¹Assistant of the Institute of Physical Education, Keio University.

野外活動における指導者の役割について

が中心となっていた。³⁾しかし、野外活動の多様化に伴い、これからの指導者には技術の指導のみにとどまらない幅広い視点が求められるように思われる。また、野外活動人口の増加・内容の多様化の一方で、野外活動に伴う事故の増加、愛好者による自然破壊などの諸問題が起きている。このような状況の中で野外活動の普及・発展のために指導者の果たす役割はより重要になってくると考えられる。

また、野外活動の多様化に伴い、指導の場も伝統的な組織的キャンプのみならず、各種アウトドアスポーツの講習、自然観察会等の多岐に渡り、指導の目的、内容もそれぞれ異なっている。しかし、「自然環境を背景に行われる」以上、野外活動の指導において必要とされる役割には共通点があるように思われる。

¹⁴⁾東原は、野外活動を、自然環境を背景に行われる諸活動の総称とし、その主な構成要素として、活動環境、活動内容、活動主体を挙げている。

そこで本論では、野外活動において広く共通して必要とされる指導者の役割を、野外活動の構成要素である活動環境、活動内容、活動主体の観点から考察し、これからの野外活動における指導者のあり方に関する一資料を得ることを目的とする。

野外活動の構成要素と指導者の役割

1 活動環境からみた指導者の役割

野外活動の構成要素として第一に挙げられるものとして「活動環境」がある。「活動環境」というまでもなく「自然環境」のことであり、野外活動が多様化の様相を見せている現在においても、その定義に共通しているものは「自然環境を背景に行われること」である。従って、参加者に自然環境に対する正しい理解を促すことは重要なことである。このような役割としてインタープリターが挙げられる。

インタープリター (Interpreter) は、「インタープリテーション (Interpretation) をする人」のことを指す。¹⁰⁾Regnier, K.らはインタープリテーションを、「自然・文化・歴史 (遺産) をわかりやすく人々に伝えること。自然についての知識そのものを伝えるだけではなく、その裏側にあるメッセージを伝える行為、あるいはその技能。」と定義している。

¹¹⁾また、杉浦は、宮沢賢治を優れたインタープリターとして捉え、インタープリターの視点として①科学的視点②学際的な視点③有情体験に基づく視点④エコロジー的視点⑤共時性原理に基づく視点⑥ミクロコスモスの視点⑦コスモロジー的視点の7つを挙げている。

つまり、自然環境に対する理解を深め、環境に対する適切な行動がとれる人間を育成していくためには、自然に対する科学的知識だけでなく、自然に対する畏敬の念や愛情など、杉浦の

野外活動における指導者の役割について

指摘する「情動的な側面」が重要だと考えられる。

以上のことから、インタープリターの役割は、自然界の様々な出来事を科学的知識として伝えるだけでなく、自然の魅力や自然から受けた感動などのいわゆる情操的な側面をも含む「解説」を行うことと考えられる。

アメリカ合衆国においては、国立公園のレンジャーや民間の環境教育団体などのスタッフによって、様々なインタープリテーションプログラムが用意されており、必ずしも家族などで国立公園を訪れた公園来訪者たちだけでなく、学校のクラス単位でこうしたサービスを受ける場合も多い。⁵⁾

地球的規模の環境破壊が進んでいる現在において、その解決には自然環境に対する科学的認識が必要である。しかし、自然認識に限らず事物の認識は五官による直接経験、感性的認識を原体験とし、メディアによる間接経験による認識を加えて拡充される。¹³⁾ 前述したように、野外活動が自然を背景にして展開される活動である以上、野外活動の成立条件の最も基本的なものは自然との接触・直接経験である。従って、野外活動は自然環境に対する科学的認識の原初段階である自然の直接経験、感性的認識を深める点において貢献し得るものである。また、指導者がインタープリターとしての役割を果たしていくならば、自然環境の科学的認識を深める点においてもまた大きく貢献し得ると考えられる。

以上のことから、インタープリターとしての役割は野外活動の指導者にとって必要不可欠なものであると考えられる。

2 活動内容からみた指導者の役割

野外活動の構成要素として第二に挙げられるものとして「活動内容」がある。前述したように、現在では身体的活動のみならず、知的・芸術的活動も野外活動の範疇として捉えられ、身体的活動においても様々なアウトドアスポーツが行われるようになっている。以下に多様化した野外活動の分類を記す。

1) 形態による分類

- a) 身体的野外活動：登山、サイクリング、キャンプ等の身体的活動が中心となる活動
- b) 知的野外活動：動植物、地質、水質、大気等の自然科学的研究活動及び歴史、風土、文化遺産等の社会科学的研究活動
- c) 芸術的野外活動：自然環境を題材にした絵画、写真、音楽等の芸術的活動

2) 場所による分類

- a) 陸域野外活動：登山、サイクリング、キャンプ等の陸上での活動
- b) 水域野外活動：カヌー、ヨット、ダイビング等の水辺での活動

野外活動における指導者の役割について

- c) 空域野外活動：スカイダイビング、ハンググライダー、熱気球等の空中での活動
- 3) 危険の程度による分類¹⁾
 - a) ロー・リスクの野外活動：フィッシング、ピクニック、オリエンテーリング等の比較的危険の小さい活動
 - b) ミディアム・リスクの野外活動：バックパッキング、乗馬、クロスカントリースキー等の中程度の危険を伴う活動
 - c) ハイ・リスクの野外活動：スカイダイビング、ロッククライミング、スクーバダイビング等の比較的危険の大きい活動

以上のように、現在の野外活動は、身体的活動の要素が強いものから、知的・芸術的活動の要素が強いものまで、陸上で行うものから、水辺・空中で行うものまで、危険の少ないものから、比較的危険の多いものまで、著しい多様化の様相を見せており、中には専門的な技術を必要とする活動もある。そこで、指導者には、各種活動の技術の伝達を図るインストラクター(Instructor)としての役割が求められる。

長谷川²⁾は、野外活動に必要とされる技術を別の観点から以下の2つに分類している。

1) 野外活動共通技術

自然を理解するために必要な技術、自然を活用するために必要な技術のこと。地図の読み方、コンパスの使い方、歩行の技術などが挙げられる。

2) 個々の活動技術

その活動固有の技術のこと。カヌー、パラグライダー、スクーバダイビング等、特別な技術を必要とするアウトドアスポーツの技術などが挙げられる。

野外活動人口の増加、内容の多様化に伴い、新しいアウトドアスポーツが注目され愛好者も増えている。また、中高年を中心に登山・ハイキング人口も増加している。しかし、その一方で、計画、装備、食料等の不備、体力、経験の過信等、活動主体の安易な意識による事故も増加している¹²⁾。これらの事故を防ぐためには、種目固有に必要とされる技術のみならず、野外活動において共通して必要とされる技術の伝達も重要と考えられる。

野外活動を楽しむための技術の必要性については多様な段階があり、どの活動においても全く技術を必要としないものはない。従って、野外活動に関する技術を伝達するインストラクターとしての役割は今後も重要であると考えられる。

3 活動主体からみた指導者の役割

野外活動の構成要素として第三に挙げられるものとして「活動主体」がある。野外活動の指導においては、マンツーマンで指導することは少なく、ある小集団を対象として指導する場面

が多い。

19世紀にアメリカ合衆国で始まった組織的キャンプは、青少年の健全育成を図るための手段として飛躍的に発展し、充実することになるが、1930年代にようやく体系化されてきた「グループワーク」が理論的に整理されるにつれ、パーソナリティの形成を野外活動やキャンプを通じて意図的に行おうとする取り組みが盛んになってきた。⁶⁾それに伴い、組織的キャンプでは、8～10名のグループをキャンプカウンセラーまたはグループカウンセラーと呼ばれる指導者（以下、カウンセラーとする）がまとめ、その中で参加者と直接に接し、親睦関係を結びながら、成員間に起こる相互関係が円滑になるような援助を行っている。そして、それらの活動を通して、自主性、協調性、責任感、リーダーシップの養成など、民主的・社会的な生活を営むことを学習することが重要な目的となっている。

日本キャンプ協会では、カウンセラーの役割として以下の5点を挙げている。⁸⁾

- 1) 1人1人の心を開き、お互いの人格を理解させるようにし、安心感を与える。
- 2) さらに話し合いをし、仲間意識をつくる。
- 3) 交流を盛んにし、グループの特色をつくり、そのグループへの所属に誇りを持つようにする。
- 4) 他グループにも目を向け、自分たちの視野を広げ得るようにする。
- 5) 全体の動きの中で、グループの姿勢統御をし、全体への貢献が可能になるようにしていく。

以上のように、野外活動では小集団を対象として指導する場面が多く、特に小集団内での様々な活動を通して個人と他人との関係を認識、拡大していくことを目的の一つとする組織的キャンプにおいては、カウンセラーとしての役割が重要な位置を占めると考えられる。¹⁵⁾

野外活動を運営・管理するための役割

ある目的を持って野外活動の指導を行う場合、その目的を達成するために資源を活用して効率的な組織を作り、それを運営していくことが重要である。⁹⁾つまり、指導者には管理者・アドミニストレーター（Administrator）としての役割が必要とされる。

管理者としての役割には、運営管理者と安全管理者の二つの側面がある。野外活動の運営には、①野外活動施設、用具の管理・運営②行事、プログラムの運営③組織の運営が挙げられる。²⁾また、組織的キャンプにおいては複数の指導者がキャンプの目的に添ってキャンプを実施するため、組織の運営が重要視されている。組織的キャンプに限らず、複数の指導者で野外活動を指導する場合には、指導者間の連携を図ることも運営管理者の役割として重要であると考えら

れる。

運営管理者の役割と並んで重要なものに安全管理者の役割が挙げられる。野外活動を行う場である自然環境は、現代人にとって非日常的な空間であることから、様々な危険を内包している。また、最近では野外活動における事故が裁判に発展する例も増えている⁷⁾。従って、野外活動の指導者は、安全対策に十分留意するとともに、事故が発生した場合の措置や対応、さらにその場合に生ずる法的責任に対する対策などが必要とされるであろう。

管理者としての役割は、野外活動の目的を達成するために参加者に対して直接的に働きかけるものではない。しかし、野外活動のプログラムを安全に、効率よく行っていくためには、重要な役割と考えられ、どのような活動を行う場合でもある一定の度合いで必ず必要とされる役割であろう。

これからの野外活動の指導者のあり方

以上、野外活動の構成要素である活動環境、活動内容、活動主体から導き出された指導者の役割として、インタープリター、インストラクター、カウンセラー、アドミニストレーターの四つの視点から考察してきた。以下、これらの四つの視点を踏まえて、これからの野外活動の指導者のあり方について考察を試みる。

これからの野外活動において指導者が果たす役割の概念図を図1に示す。

野外活動を構成する要素として活動環境、活動内容、活動主体が挙げられ、それぞれにインタープリター、インストラクター、カウンセラーとしての役割が対応している。

前述したように、野外活動人口の増加、内容の多様化に伴い、野外活動における指導者の役割も変化している。また、野外活動の目的や内容によって同じ活動でもその指導内容は異なる。

例えば、登山というプログラムを実施する場合でも、登山技術を駆使して山頂を目指すことを目的とする場合、周囲の自然学習を目的とする場合、グループで登山という克服的な活動を行うことによってグループの凝集性を高める場合など、多様な目的が考えられ、その目的によって指導者に必要とされる役割も異なる。しかし、自然学習を目的とする場合、主にインタープリターとしての役割が求められるが、複数の参加者がいる場合にはカウンセラーとしての役割、自然を学習するための技術を伝えるインストラクターとしての役割も必要とされる。

つまり、指導者の役割に関する四つの視点のうち、インタープリター、インストラクター、カウンセラーとしての役割は、それぞれの役割を果たしつつ、活動の目的や内容によって、要求される度合いが変化すると考えられる。

その一方、野外活動の指導をする上で、プログラム等の運営、安全への配慮に関しては野外

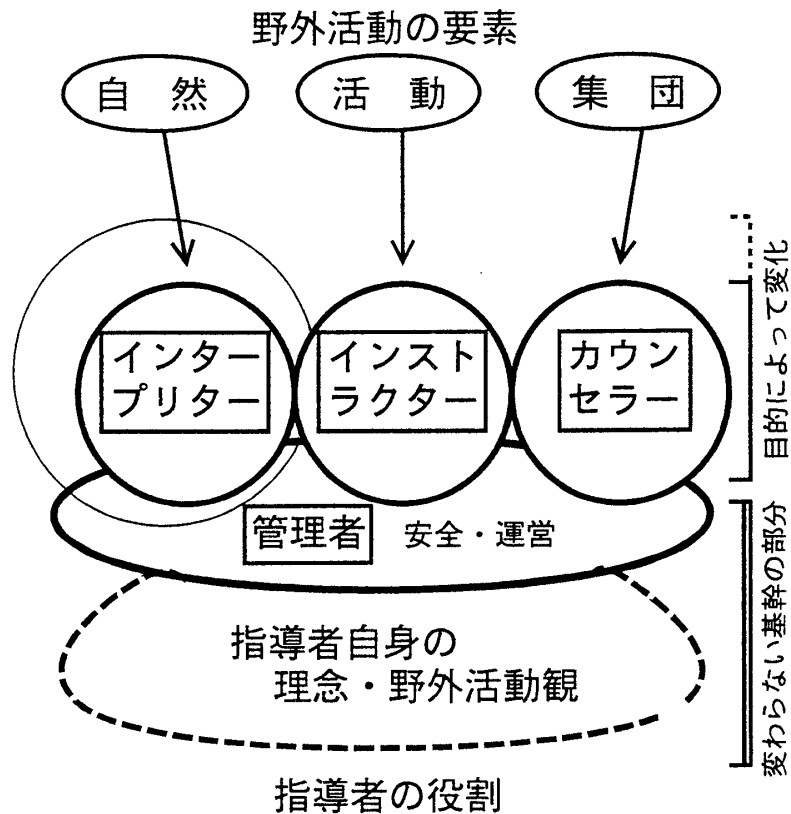


図1 野外活動で指導者が果たす役割の概念図

活動の目的や内容の違いに関わらず重要であると思われる。従って、指導者の役割に関する四つの視点のうち、アドミニストレーターとしての役割は、その目的や内容に関わらず、常に一定の度合いで必要とされる基幹の部分であると考えられる。

また、アドミニストレーターとしての役割と並んで指導者の役割の基幹となるものに、指導者の野外活動に対する考え方が挙げられる。星野³⁾は、現在の指導者に必要なものとして、その活動の思想や理念、あるいはその活動に携わる者の自然や活動に対する考え方など、いわば「技術プラスアルファ」の部分の重要になると述べている。

つまり、指導者自身が活動に対する思想や理念、野外活動観を持ち、それを伝えていくこと、換言すれば「野外活動の指導」を「野外活動を通しての指導」にしていくことが重要であろう。

まとめ

本論は、野外活動において広く共通して必要とされる指導者の役割を、野外活動の構成要素である活動環境、活動内容、活動主体の観点から考察し、これからの野外活動の指導者のあり方に関する一資料を得ることを目的とした。その結果、以下の結論が導き出された。

野外活動における指導者の役割について

- 1 野外活動の構成要素である活動環境、活動内容、活動主体に対応して、インタープリター、インストラクター、カウンセラーとしての役割が必要である。
- 2 野外活動の目的を効率よく達成するためにアドミニストレーターとしての役割が必要である。
- 3 これからの野外活動の指導者は、自らの野外活動観のもとに、基幹の部分としてアドミニストレーターとしての役割を果たしつつ、活動の目的や内容に応じて、インタープリター、インストラクター、カウンセラーとしての役割を果たしていくことが必要である。

引用文献

- 1) Darst, P.W., Armstrong, G.P. (1980) Outdoor Adventure Activities for School and Recreation Programs : Pp.307. Burgess Publishing Company.
- 2) 長谷川純三 (1988) 野外活動の指導. 日本野外活動団体協議会 (編) 野外活動マニュアル : pp.31-35, 杏林書院.
- 3) 星野敏男 (1994) 野外活動の振興と野外活動団体の果たす役割. スポーツと健康 26巻第4号 : pp.13-17.
- 4) 伊藤堯・山田良樹 (編) (1995) スポーツ六法 : p.14. 道和書院.
- 5) 川島直 (1994) 民間の環境教育団体が行う学校向けのインタープリテーションサービス. インタープリテーション入門 : pp.199-200. 小学館.
- 6) 北川清一 (1986) 野外教育におけるグループワークの展開. 石田裕一郎・齋藤保夫 (編). 現代野外教育概論 : pp.5-17. 海声社.
- 7) 草野功一 (1986) 事故とリーダーの法的責任. 石田裕一郎・齋藤保夫 (編). 現代野外教育概論 : pp.158-167. 海声社.
- 8) 日本キャンプ協会 (編) (1981) キャンプ指導のてびき : pp.45-55. 日本キャンプ協会.
- 9) 近江岸建助 (1995) キャンプのアドミニストレーション. 現代のエスプリ 第334号 : pp.191-201.
- 10) Regnier, K., Gross, M., Zimmerman, R. (1994) インタープリテーション入門 : pp.13-20. 小学館.
- 11) 杉浦嘉雄 (1991) 宮沢賢治に学ぶ“自然のインタープリター”の視点. 環境教育 1巻. 第1号 : pp.72-73.
- 12) 束原昌郎・中村正雄 (1991) 山岳事故に関する世論に関する一考察. 東京学芸大学紀要第5部門 第43集 : pp.255-261.
- 13) 束原昌郎 (1993) 野外教育における環境教育に関する一考察. 東京学芸大学紀要第5部門 第45集 : pp.165-170.
- 14) 束原昌郎 (1994) 野外活動の教育的意義. 体育科教育 42巻. 第5号 : pp.13-17.
- 15) Van der Smissen, B. (1975) The dynamics of Research, Van der Smissen (Ed.) Research Camping and Environmental Education : pp.5-17. The Pennsylvania State University.